

水口東中学・高校における国語科の実践と評価

雲 山 由美子

一、勤務校の概要と担当授業

本校は、昭和五十年四月に開校し、今年で二十九年目を迎える。この間に着実に進学実績をあげ、部活動も活発で優秀な成績を収め、地域の信頼を得てきた。さらに、今年度からは、県下初の中高一貫教育の実践校（公立中学校を併設した中等教育学校）としてスタートし、新たな課題に挑戦しようとしているところである。

私は現在、本校に赴任して四年目にあたり、高校一年生の担任をし、「夢未来予想図」と名づけた総合的な学習の委員を担当している。授業としては、高校一年生の「国語総合」（4単位）と「言語」（1単位）、中学一年生の「Lタイム（読書タイム）」（1単位）を担当している。

二、年間指導計画について

年間指導計画の作成にあたっては、教科ごとに原案を立て、複数の担当教員が足並みをそろえて進めることを原則としている。前年度末に原案を立て、教科会議を経て、年

度初めに生徒に配布する。四月当初に全学年にシラバス（進捗表）を提示することによって、生徒たちは学習目標・到達点を認識することができるのである。

ここでは中学一年の「Lタイム」、高校一年の「国語総合」、「言語」の年間指導計画を示す

……資料①②③

この予定通りに授業を進めていくことはなかなか難しいのが現状であるが、年間指導計画を立てることによって、教師は「生徒たちに身につけさせたい力」を明確にすることができると思われる。

三、中学校読書タイムの実践と評価

「Lタイム（読書タイム）」は水口東中学校の学校設定教科である。読書力は、真の学力の基礎であり、自ら学び、考える力、生きる力の源泉でもある。「言語」能力を育成するため、中学校段階からの徹底した読書指導を重視することにした。

……資料④

1、Lタイム（読書タイム）の学習目標

- 1、段階的に様々な分野の読書に慣れ、日本語に対する言語感覚を磨き、自分自身の考えを深めよう。
- 2、読書を通して、人生や社会に対する視野を広げ、自分自身の考えを文章にしたり、発表したりしよう。

2、Lタイムにおける学習活動

Lタイムは、基本的には、二つの学習内容で構成されている。一つは帯単元としての「読み聞かせ」である。もう一つは、「読書活動」や「話し合い活動」及び「スピーチ活動」等である。「読むこと（読書）」を基本の柱にしなが、話すこと・聞くこと」や「書くこと」と関連付けた活動を展開するように心がけている。

①読み聞かせタイム

毎回、十分間教師が読み聞かせをすることにした。会場は教室に限定しない。初めは、オリエンテーションも兼ねて図書室を使っていたが、多目的ホール（絨毯の部屋）に移動したり、読書紹介スピーチの関係で教室を使ったり、目的と内容に応じて自在に移動していった。取り上げた本は、下記のように絵本が中心になったが、生徒たちは楽しみに聴いてくれていたようで、私もわくわくしながら過ごすことができた。

この時間に関しては一切生徒への評価はせず、心に感動

だけを残しておくことをねらいとした。

『ぼくをさがしに』 (シルヴァスタイン)

『あいたくて』 (工藤直子)

『ごぼんじいさんの柿の木』

(文・すとうあさえ 絵・織茂恭子)

『ゆずちゃん』 (肥田美代子)

『わすれられない贈り物』

(スーザン・パレイ)

『百万回生きた猫』 (佐野洋子)

『蜘蛛の糸』 (芥川龍之介)

『鼻』 ()

『夢十夜』 (夏目漱石)

②好きな本を読もう

毎時間、自分の興味を持った本を読んでもらうことにした。自由に好きな本を読む中で本を読む楽しさを身につけることを目標としている。

毎回、読書日記をつけ、二十冊読むと賞状を渡すことにした。この読書日記は本の中から感銘を受けた部分を書き写したり、五行の感想を記録したりするプリントをファイルしたものである。

かなり個人差があり、三十冊以上読破した生徒もいるが、中には読んでも記録できない生徒や五冊止まりという生徒

もいる。こうした生徒たちには、個人的に話をしたり本を紹介したりすることによって、遅れを取り戻せるように配慮している。

③読書紹介カードの回し読み

入学時に各自に提出してもらった読書紹介カードを回し読みする。さらに、紹介カードを読んで、読んでみたいと思つた本と理由を書かせる。

小学生時の読書量や読書傾向にはかなり個人差があるので、友人のカードには強い関心を示し、自分が読みたい本を探す上での刺激になつたようだ。

次の時間は、「紹介カードを読んで、読んでみたいと思つた本と理由を書いてみよう」の抜き刷りを印刷し、全員分を配布する。

……資料⑤

④読書紹介スピーチを行う。

中学校に入学してから読んだ本の中で、是非友人に紹介したいと思う本を一冊選んで全員にスピーチをしてもらう。高校生の場合は、スピーチというと、初めのうちは抵抗や拒否反応を示すことが多かったが、中学生たちは物おじすることもなく、楽しそうに自分の好きな本を手に持ちながら発表してくれたので、私の方が感動してしまつた。

毎回、黒板に本の題名・作者名を記入し、生徒たちはあらすじ・印象的な文章・感想を交えて本を語る。スピーチ

を聴いている生徒たちは、感想を記入する。スピーチの後には、教師の質問やコメントも交えることにした。

今まで読む機会のなかつた本を知ることができ、幅広い読書をするきっかけになつたと思われる。

……資料⑥

3、「Lタイム」における評価の実際

これらはすべて、相互評価・自己評価を中心に進めた。例えば、次のような方法である。

①「読み聞かせタイム」は一切生徒への評価はしないと前述したが、もちろん生徒の反応やその場の雰囲気には毎回気を配っていた。読み聞かせは、耳から入ってくる言葉がいい響きをもつて心に入っていく。知識、理解ではなく、言葉がそのままイメージとなつて心の中に入っていくように感じる。我々はずい、感動したことを言葉にしなければならぬと考へがちだが、聞き浸るだけの時間も大切なのではないだろうか。そういう意味でも生徒には感想も聞かないことにした。ただ、教師の自己評価は毎時間行っていた。今回の選書はどうか、自分の読み方は適当だったのか、生徒の座り方に問題はなかつたか。学校司書の先生にも私の読み聞かせを聞いていただき、評価してもらふことにしていた。

②「好きな本を読む」では、毎回読書日記をつけていくことを指示した。五行程度の感想と印象に残った点の抜き書きであり、あまり負担は感じずに書き進めてくれている。隔週に提出してもらい、教師のコメントを記入して返却している。次々と読書日記のプリントを取りに来る生徒も現れ、3ヶ月ですでに三十冊を読破している生徒も現れた。現段階はとにかく「自由読書」なので、読む本について、とやかく指示はしていない。できるだけたくさん読むことを目標にしている。

③「読書紹介カードの回し読み」では、生徒同士の相互評価を中心に行った。特に紹介カードの中で自分が興味を持った本、是非読みたいと思った本については、理由と共に評価表に記入してもらい、次の時間に印刷して配布した。読書紹介カードは図書室に掲示する予定である。

④「読書紹介スピーチ」では、中学に入学してから読んだ本の中から一冊選び、皆の前でスピーチを行った。発表原稿を前もって作成してもらい、スピーチ後に提出させた。教師からは「原稿を見ないで話すこと、本の一部を紹介すること、はっきりとした声で話すこと」を注意し、聞く側の姿勢についても、「話し手が気持ちよく話せる雰囲気をつくること、期待感を持つて聞くこと」に触れておいた。紹介後、生徒達は相互評価表にスピーチの感想を記入し、ス

ピーチを行った生徒には自己評価してもらった。

4、「Lタイム」における評価の問題点

今回の「Lタイム」のように、知識の多寡を問うことができない教科の場合、どのように評価していくべきなのかということが問題になってくる。

生徒たちには年度当初に「個人の目標」を設定してもらった。「一年間に五十冊は読みたい」「さまざまなジャンルに挑戦してみる」「毎日少しずつ本を読む」など一人一人の目標には個人差が見られる。しかし、一年間を振り返ったときに自分がどのように成長したかをみるための一つの指針にはなるだろう。

教師側からいえば、一年時は「落ち着いて読書し、意欲的に授業や読書記録に取り組むことができる」「幅広い分野の図書を読み、適切な表現で記録することができる」とを評価の観点にしている。今後、二年時以降及び高校での学校設定科目「言語」にどのように接続し、目標を深めていくかの指導計画の詳細を考えていくことが課題である。「Lタイム」の評価は、音声言語における評価と同様、ペーパー試験には馴染まないものがあるので、学習過程における評価が重視されてくる。しかもかなり長いスパンが必要とされている。単元ごとに、観点別評価目標と具体的評価目標を設定し、学習過程及び事後に評価を行うことが必要だと思われる。

「評価」については、いろいろ試行錯誤を繰り返しながら、生徒の力をいつそう高めていける方法を探究していくことが必要であろう。その際、教師からだけの評価だけでなく、生徒同士の相互評価や生徒の個人評価を行い、次回への課題を見つけていくことが大切だと考える。

四、評価に関する考察（中・高の国語科全般）

以上の実践例をもとに、評価について考察するならば、「評価」をするにあたって次の4点について考えておく必要があるということになる。

①教師としての力量の向上

生徒にとって、教師による評価は生徒の学習に多大な影響を与えるものである。それだけに教師は最善を尽くして評価する必要がある。

その評価の在り方については、「主観的な評価ではないけれど、客観的な評価をするべきだ」という声をよく耳にするが、特に音声言語の授業を行っている際などには、「主観的だと思われる評価」も有効なものはないだろうか。例えば、スピーチの後の教師のコメントや、生徒との机間巡視の際のやりとりで、我々は励ましの言葉や賞賛の言葉、課題の言葉などを投げかけているが、それらは必ずしも客観的な評価とはいえない気がするのである。その生徒との関わりの中でふと口にする言葉が心に届く場合が多くあ

る。生徒との人間関係の中で、その場に応じた評価言をどのように発していくか。それは多くの場合、状況に左右されやすいものであり、客観性の乏しいものとなるおそれがあるが、その反面、最も生徒の心に届きやすいものでもある。私はそれを「主観的な評価」と呼び、重視していきたいと考える。

教師は、この主観的な評価眼をも磨いていくべきではないか。我々は日ごろから専門職としての力量を向上させ、生きた言葉を発せられる人間であるよう、言語生活を豊かにすることに對して常に意識する必要がある。

②生徒を伸ばすための評価

評価の目的は、考查の成績によつて生徒のランク付けをすることではない。生徒の学習状況を把握し、生徒の学力の伸長を図ることがねらいである。このことを踏まえながら、評価方法を工夫していくことが大切である。例えば、現在高校「言語」においては、漢字の小テストや古文の文法確認テストなどを実施しているが、一回きりのペーパーテストではなく、毎回記録用紙を残すことによつて、生徒達は自己評価を行い、次回のテストに臨むようにしている。また、読書指導にあたっては読書量や読書傾向に個人差があるため、一人ひとりと話をする中から個々に応じた選書を行い、到達目標を定める必要を感じる。

また、評価は特定の教科や科目の到達度を知るために行

うものであることを認識しておく必要がある。

③ねらい・願いを踏まえた評価

各学校の指導目標やそれを実現するための具体的な指導内容、指導方法には、学校や教師のねらい、願いが込められている。

そのために職員全体が、学校の理念や目標を再認識し、共有しておく必要がある。個々がバラバラに、また、教科によって評価規準が異なってしまうと評価の意味が薄れてしまうのではないだろうか。

④プロセスを重視した評価

評価の結果を指導に生かすためにはプロセス（過程）を評価することが大切になってくる。

ポートフォリオを積極的に取り入れていく必要性を感じている。

読書指導においては、徐々に徐々に水まぎを行っていろいろな気がしている。今すぐに結果がでるものではなく、人によつては十年後、二十年後に花が開くものかもしれない。しかし毎時間、自分の感動したことを記録する一冊のファイルの中に読書記録が履歴として蓄積されていけば、それは目に見えるものとして確かな自信につながっていくであろう。

また、現在、高校の総合的な学習においては、すべて学

んだことや、記録したことを一冊のファイルに閉じていく形式にしている。三年間の積み重ねの中で「知の総合化」がはかれればと願っている。

理念としては以上のことを念頭に踏まえておきたいが、実際に評価するにあたっては通知票にのせるための評定が中心になっている。現在本校でも観点別評価を作成し、検討している最中である。

……資料⑦

また、今回の中学Lタイムのように、少人数の場合は一人ひとりを丁寧に観察することも可能であるが、高校の場合、二百人以上の生徒を詳細に観察し、声かけをすることは至難の技のように思われる。やはりペーパーテストによる知識・理解度を数式的に掴むことに頼らざるを得ないのではないだろうか。

「評価」についてはまだまだ、暗中模索の状態が続いているが、生徒の力をより高めていけるような基準を探索していく必要性を感じる。

教師からだけではなく、生徒自身による自己評価や生徒同士の相互評価を行い、自分の到達目標がどこまでかなえられたかを確認し、充実感を味わえるものにしていけたらと願っている。

五、今後の課題

最近読んだ大村はま先生の著書の中に次のような文章があつた。

「評価というものは教師にとりましては、これから子どもたちをどんなふうに指導していったらいいか、その「指針」を得ることである。一方、子どもにとりましては、自分自身がこれからどんなふうに勉強していったらいいか、それをしつかり持つこと、評価とはこの二つであると習いました。」

（大村はま96歳の仕事）

指導目標を明確にすること、バランスのとれた年間指導計画表を作成し、提示すること、教師の評価眼を鍛えること、今まで個々で行われていた評価について教師の意識改革を進めていくこと。生徒に学習後の充実感を与え、これからの学習意欲につなげていくこと。

暗中模索の状態から少しずつ前向きに取り組んでいきたい事柄である。

（滋賀県立水口東高等学校・中学校）

L - T I M E 年間指導計画

1 年		2 年		3 年	
4	図書館オリエンテーション 読書ノート・読書記録カードの作成 読書目標の設定 学級・個人の目標 ブックトーク 好きな本を読もう①	1	読書目標の設定 好きな作家のスペシャリストになろう ・同じ作家の本を4冊以上読み、作家についても調べる。	1	読書目標の設定 読書新聞を作ろう ・好きな作品の新聞を作り、掲示して紹介する。
5	自由に好きな本を読んで、抜き書きや、五行感想を記録する。	1	本の帯(または書店のPOP)を作ろう 読書会を開こう① ・グループ別にゼミ形式で一冊の本を読み話し合う。	1	読書会を開こう② グループ別に一冊の本を読み話し合う。
6	読書紹介スピーチをしよう 前回読んだ本の中から、紹介したい本を選び、発表する。	3	読書感想文 ・少し深く読みとって感想を書く。 読書感想文集づくり	2	課題図書を読もう⑥ 「科学」分野
7	読書感想文指導 読書感想文(夏休み)	1	・ワープロ打ちして作品集を作る。	2	
9	名作のテープ(CD)鑑賞 学年集会で読み聞かせ 朗読の練習	1	課題図書を読もう④ ・選定図書リストから「科学」分野の随想・評論を読む。	4	課題図書を読もう⑦ 「歴史・社会」分野
10	町立図書館へ行こう ・レファレンスサービスの受け方 ・本を借りてみる 課題図書を読もう①	2	9月の続き	3	9月の続き
11	・選定図書リストの中から、「人生」を考えさせる小説・随想を読む。 ・各時間の終わりに抜き書きと簡単な感想を記録。 ・最後に感想文を提出。	7	課題図書を読もう④ ・選定図書リストから「歴史・社会」分野の本を読む。	7	課題図書を読もう⑧ 「現代社会」分野
12					
1	課題図書を読もう② ・選定図書リストから「現代社会」を考えさせる評論・随想を読む。 (以下同じ)	7	課題図書を読もう⑤ ・選定図書リストから「人生」考える本を読む。	7	課題図書を読もう⑨ 選定図書リスト全体から読みたい分野を選んで読む。
2					
3	好きな本を読もう②	2	町立図書館の方をお招きしてブックトーク・読み聞かせ	1	読書のまとめをしよう
	読書リストづくり	1	読書リストづくり	1	
	3 5		3 5		3 5

※上記以外に、絵本紙芝居づくりや、保育園での発表、近江の文学調べなどを総合で行いたい。

資料2

国語科「国語総合」年間計画（指導と評価）

平成15年度

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教科名等
国語総合	4単位	高校1年	明治書院「精選国語総合」	
到達目標 【学習指導要領】	<ul style="list-style-type: none"> 目的や場面に応じて語感を適切に表現し、的確に理解する力を育成し、相手の立場や考えを尊重し、伝え合う力を高める。 思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を養い、また、併設中学校での学習活動と連関し、「読書」に親しみ態度を養う。 言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 			
到達目標に向けての具体的な取組み 【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめて正確に表現できるよう、発表などを取り入れ、同時に、相手の意見を聞く態度を養う指導をする。 日常生活の中で必要な手紙や文章が正しく書けるよう指導し、併せて敬語表現についても日常的に指導する。 現代文、古文・漢文の多彩な文章に慣れ親しみ、国語に対する感覚を磨くように指導し、多様な読書案内、授業指導を行う。 常用漢字の読み書きについては反復的に学習資料し、社会生活の各場面で必要な語句については見聞的な学習を展開する。 社会生活を豊かにする上で必要な語句の意味、用法及び表記の仕方幅広く理解し、語感を豊かにするように指導する。 			

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	雑劇 呼びかけの言葉 文野 新語 野間 水の原 野間 古語と現代語 古文入門 桃井道徳忠明	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の感じ方やものの見方、表現の仕方を理解する。 課題に応じた内容と読み方を工夫し、効果的に伝える。 論旨に従い、筆者の考えをまとめる。 現代語と結びの扱い、仮名遣い、古文常識を知る。 古文と現代文の違いを理解し、古文を読む基礎を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート、課題提出 観察、学習記録表、相互評価 ノート、ワークシート ノート、確認テスト 観察、ノート、課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えを正確に理解しているか。 聞き手によって表現を工夫し、伝えているか。 課題に従い、筆者を正確に読み取れたか。 基礎的知識、古典常識が定着しているか。 語のおもしろさをとくくらえているか。
5月	野間 用意の活用 古文 大江山 牧草子 野間 助動詞 小説 羅生門	<ul style="list-style-type: none"> 古文の基礎知識を理解し、辞書を使えるようになる。 古文の内容を理解し、どこが面白いかをまとめる。 助動詞の用法を理解し、活用・意味・接辞に慣れる。 小説に慣れ、登場人物の心情、テーマを読みとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート、確認テスト ノート、ワークシート ノート、確認テスト ノート、課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> 文中の語句を辞書で正しく調べられるか。 語の義が理解でき、適切に使えているか。 助動詞の活用・意味・接辞を理解できるか。 心情を理解し、自分の言葉でまとめたか。
6月	詩 小娘なる古城のほとり 越 一方糸 評論 世界の中の「オ」 野間 朝花の基礎 漢文入門 朝花、新書 漢文 成り、故事	<ul style="list-style-type: none"> 詩に親しみ、その表現や詩中の言葉の働きを味わう。 グループ内の話し合いの中で、詩への感動を深める。 論旨に従い、筆者の考えをまとめる、要約する。 質素の考えを学び、朝花返りに習熟する。 繰り返して音読し、漢文の特色に慣れる。 音読の調子を整え、漢文の要旨をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート、ワークシート 観察、まとめと発表 ノート、ワークシート ノート、確認テスト 観察、ノート、暗唱 暗唱、ノート、課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> 詩中の言葉の表裏を表現、発表できるか。 積極的に参加し、意見を述べているか。 文章展開に慣れ、要点を文章化しているか。 音読が定礎として、正しく読めるか。 書き下ろし文に従って、調子が打てるか。 内容を正しく理解し、表現できているか。
7月	古文 平家物語 漢文 故事	<ul style="list-style-type: none"> 音読を中心に、節題をまとめて発表する。(休業中 助詞) 本文中の語句や接続の効果について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート、発表、課題提出 観察、ノート、ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> 発表を自分なりに工夫できているか。 本文中の内容を説明できるか。
9月	読み聞かす ギャレット 朝花 和歌の修辞 古文 伊勢物語・和歌 朝花 髪五尺 野間 演劇の規則 漢文 成詩	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果やパネルディスカッション形式で話し合う。 和歌の修辞技巧に関する基礎的事項を知り、理解する。 和歌のリズムをとり、表現の面白さを発表する。 近代和歌を読み味わい、絵入りの鑑賞シートを作る。 近体詩の決まりについての基礎事項を理解する。 音読を繰り返して、演劇のリズムを体感し、慣れ親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察、学習記録表、相互評価 ノート、発表テスト ノート、発表、相互評価 ノート、鑑賞、作品発表 ノート、確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な発表、表現活動に参加しているか。 和歌に関する基礎事項が理解できているか。 自分の意見をはっきりと発表できているか。 感じたいテーマを伝える工夫があるか。 演劇に関する基礎事項が理解できているか。 話し合いの中で詩の読みが深まったか。
10月	小説 道化と満応 小説 信念	<ul style="list-style-type: none"> 読者の心情について、クラスで話し合いをする。 日常生活での常識を疑い、読者の転機を理解する。 小説の登場人物の心情を読みとる、テーマを探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察、発表、相互評価 ノート、ワークシート ノート、課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの中で詩の読みが深まったか。 教材の内容を自分なりに置き換え理解できているか。 心情を理解し、テーマを表現できているか。
11月	野間 敬語 古文 夷韻日記 古文 百人一首	<ul style="list-style-type: none"> 敬語の基礎的事項を、古文の敬語法と併せて理解する。 繰り返して音読を行った後、自決、テーマをまとめる。 物語を通して、平安時代の時代背景、生活を知る。 多くの歌に触れ、暗唱し、校内百人一首大会に備える。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート、確認テスト ノート、課題提出 ノート、課題提出 暗唱、観察、相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> 敬語を理解し、日常生活で正しく使えるか。 朝花言葉で随分とまとまらされているか。 平安時代の時代背景、常識をつかんだか。 大会までに、暗唱が定着しているか。
12月	評論 身体と技法 聞き書き 群・群討論	<ul style="list-style-type: none"> 冬休みに伴った話し合いの内容をまとめて発表する。 グループでテーマを話し合い、聞き書き計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート、課題提出 観察、学習記録表 	<ul style="list-style-type: none"> 具体例を身近な題材の中心に見ているか。 説明を理解し、企画に積極的参加しているか。
1月	聞き書き 発表 評論 言語としての文化 古文 哉草集	<ul style="list-style-type: none"> 冬休みに伴った話し合いの内容をまとめて発表する。 情報と言語を切り分け、社会文化について考える。 筆者が何を言おうとしたかを考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察、発表、相互評価 ノート、課題提出 暗唱、ノート、課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> 内容、発表の中心に工夫した点はあるか。 発表を通して社会文化への理解が深まったか。 筆者の主張を正確に捉え、まとめているか。
2月	野間 群・群討論 漢文 安和 十八史略 評論 1871の知識	<ul style="list-style-type: none"> 漢文詞法と意味の決まりを理解し、読みを生かす。 繰り返して音読し、展開に則して内容を理解する。 筆者の主張を日常生活との関わりの中で理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート、確認テスト 暗唱、ノート、課題提出 ノート、課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を理解し、漢文文字が読めるか。 要点をつかみ、要旨をまとめることができるか。 文章を日常生活に引きつけ理解できているか。
3月	古文 奥の細道 俳句 狂牛	<ul style="list-style-type: none"> 紀行文を通して、歴師の生き方、芸術の意義を考える。 俳句を読み味わい、感想をプレゼンテーションする。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート、課題提出 観察、発表、作品発表 	<ul style="list-style-type: none"> 俳句の生き方、芸術の意義を理解できたか。 俳句の規則を知り、効果的表現できているか。
備考	<p>本校は生徒の言語能力の醸成を指導目標の格付けに掲げ、国語科の学校設定科目「言語」（1単位）を開設する。第1学年においては古典（古文・漢文）を履修するための基礎・基本の習得を図るとともに、社会生活において必要な国語感覚を身につけるための国語表現の基礎を指導する。また、併設中学校の関連科目（J・タイム1）との接続を意識し、既習に関しても、この科目の中で高校3年間の体系的な指導を計画している。「国語総合」の時間においては年間を通して、言語事項の基礎・基本を継続的な確認テストを通して養わせる。</p>			

毎2 月1 日	「書くこと」の観察単元 書いて伝える 手紙 記録、報告を書く、 口頭で報告をする 意見文を書く 「未来予想図」作成の 基礎	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じた通知文や手紙を一般的な形式で書いて書く。 多様なメディアから資料を集め、効果的に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート、課題提出 学習記録表、観察、相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> 社会で必要な手紙等の書式を理解したか。 資料収集が適切で、効果的に使えているか。
定期 13日		<ul style="list-style-type: none"> 必要な資料を集め、論理的に構成し、文書化する。 総合的な学習の時間「未来予想図（記述、読解）」の文章構成、記述に、科目で習得したことを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習記録表、観察、相互評価 未来予想図提出、60分以内評価 	<ul style="list-style-type: none"> 資料が適切で、文書構成に工夫があるか。 自分で習得したことが「未来予想図」の文章の構成に活かされているか。

国語科「言語」年間計画（指導と評価）

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
言語	1単位	高校1年		『原色 シンガ新語訳覧』(文芸春秋) 『シンガ新語訳覧同楽』(文芸春秋)

到達目標【学習指導要領】	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教材をとおして、本校教育課程の資格の一つとして、国語の成り立ちや特質、言語の役割等、「言語」の基礎・基本の能力を育てる。 目的や場面に応じて国語を適切に表現し、的確に理解する力を育成し、相手の立場や考えを尊重し、伝え合う力を高める。 思考力を伸ばし心構えを豊かにし、読解感覚を磨く。また、併設中学校での学習活動と連関し、「読書」に親しみ態度を養う。 言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組み【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめて正確に表現できるように、発表などを取り入れ、同時に、相手の意見を聞く態度を養う指導をする。 日常生活の中で必要な手紙や文章が正しく書けるよう指導し、併せて読書表現についても日常的に指導する。 現代文・古文漢文の多様な文章に慣れ親しみ、国語に対する感覚を磨くように指導し、多様な読書案内、読書鑑賞を行う。 常用漢字の読み書きについては反復的・多量学習し、社会生活の各場面でも必要な語については体系的な学習を展開する。 社会生活を営む上で必要な語句の意味、用法及び文脈の仕方を幅広く理解し、語彙を豊かにするように指導する。 家でさまざまな文章を暗誦できるまで読み込み、音声言語を身体で感じる。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	身体と声出し・聴き取り(2) 絵本・かるた(1) 古文の音韻事項 古典文法基礎①(2) 音韻事項 音韻と現代語 古文入門 漢字読み忠実	挨拶、自己紹介 気持に声を出して自己表現する。 言葉で遊び(キチャコピー)聴き取り ・年間を通して「漢字検定」の学習をし、2月に受験。 ・絵本、いろいろたどる。次柄かるたを使い、日本語に音とともに慣れ、音韻の機能や能力を高める。 ・「小倉百人一首」を材料に、音で快感を身体で実感させ、文法の機能についても理解する。(原P140～161参照) ・現代語と古語の違い、仮名遣い、古典常識を知る。 ・古文と現代文の違いを理解し、古文を教養基礎を学ぶ。	・読解、発表、相互評価 ・定期的な家庭学習を確認 ・音読、暗唱、調べ学習提出物 ・音読、暗唱 ・確認テスト	・声を出し自分の思いを相手に伝えられたか、自分の身体を意識できたか。 ・継続的に漢字・語句学習に取り組んだか。 ・声を出し、生き生きと音読・暗唱できたか。 ・音韻を通しての遊びに興味を持てたか。 ・声を出し、生き生きと音読・暗唱できたか。 ・文法の機能を理解し、体感を見通せたか。 ・基礎的知識、古典常識が定着しているか。 ・語のよさしるべきところを覚えていくか。
5月	古典文学の流れ(1) 古文の音韻事項 古典文法基礎②(3) 音韻事項 用言の活用 古文 大江山 戦国 音韻事項 納祭詞	上代から江戸時代までの文学史の流れをつかむ。(原P52～62) 「小倉百人一首」を材料に、古典文法の基本を知る。(用言の活用を中心に、類出の動詞も用例の中で学ぶ。)(原P319～320 320～323参照) ・古文の基礎知識を理解し、辞書を使えるようになる。 ・語の内容を理解し、どの語がもしろいか決まらぬ。 ・動詞用の用法を整理し、活用・意味・接続に慣れる。	・音読、暗唱 ・レポート ・確認テスト ・音読、暗唱 ・ノート、ワークシート ・音読、暗唱 ・確認テスト	・日本の文学史の流れの概要を理解したか。 ・声を出し、生き生きと音読・暗唱できたか。 ・テーマ別に和歌を選び、物語がわかれたか。 ・用言、動詞の活用、用法が理解できたか。 ・文中の語句を辞書でまじく調べられるか。 ・語の要点が理解でき、要約できているか。 ・動詞用の活用・意味・接続を理解できたか。
6月	故事成語(1) 漢文学の流れ(1) 漢文の音韻事項①(2) 漢文入門 漢字・音韻 漢文 成句・故事	・漢文の故事成語の成立事情を知り、調べていく。(原P338～341参照) ・漢文学の文学史の流れをつかむ。(原P272～277) ・「漢語」を材料に漢文に慣れる。音読を中心に、語点の基本を学び、特に返り点を習得する。(音読、語点の基礎)(原P286～291 301～302参照) ・繰り返し音読し、漢文独特の口調に慣れる。 ・漢文の語法に慣れ、故事の語の要点をまとめる。	・音読、暗唱、調べ学習提出物 ・レポート、発表、観察 ・ノート、確認テスト ・音読、暗唱 ・確認テスト	・興味ある故事の原典調べ、まとめたか。 ・故事を自分なりの物語にできたか。 ・中国の文学史の流れの概要を理解したか。 ・声を出し、生き生きと音読・暗唱できたか。 ・語点に従って、正しく読めるか。 ・書き下し文に従って、語点が行けるか。 ・内容を正しく理解し、表現できているか。
7月	古文の音韻事項 古典文法基礎③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ ことわざ・慣用句(1) 古文 言葉物語 漢文 故事	・「小倉百人一首」を材料に、物語を語子にする。古典文法体系的に学ぶ。(原P140～161参照) ・「故事成語」(漢語)等を材料に物語を語子にする。語点の基本を学び、特に返り点に習熟する。(音読、語点の基礎)(原P286～291 301～302参照) ・ことわざ・慣用句に含まれた意味を、探る。	・レポート(語子) ・確認テスト ・音読、発表、観察 ・確認テスト ・夏休みの課題理解 ・ノート、発表、課題提出 ・音読、ノート、ワークシート	・テーマ別に和歌を選び、物語をうまく語子にできたか(具持製作)。 ・故事を自分なりの物語に、発見できたか。 ・語点、特に返り点に従って正しく読めたか。 ・ことわざや慣用句を身近に見つけられたか。 ・発表を自分なりに工夫しているか。 ・仕組みの理解を深めたか。
8月	夏休みのレポート 古文の音韻事項 漢文の音韻事項	・4月から7月までに学習した内容をレポートにまとめる。	・レポート ・ノート、確認テスト	・故事、和歌、漢文、ことわざ、慣用句のレポートについて調べ、文字音韻の双方の観点から調べレポートを作成する。 ・文法事項(古文・漢文・現代文)を復習する。
9月	古文の音韻事項(2) 漢文の音韻事項(2) 音韻事項 和歌の修辞 古文 伊勢物語・和歌 音韻事項 漢詩の取捨 漢文 漢詩 話す聞く「イベント」	・和歌の修辞技巧の確認をする。(原P158～161参照) ・「百人一首」中の類出文法事項の確認を行う。 ・漢文の語法、句法等を確認する。(原P303～316参照) ・和歌の修辞技巧に関する基礎的事項を知り、理解する。 ・和歌の形式を聴き取り、表紙の面白さを発見する。 ・百体の秋夕りについての基礎事項を理解する。 ・音韻を聴き取り、漢詩の形式を体感し、慣れ親しみ、詩人の心構えについて、クラスで話し合える。 ・調査結果をパネルディスカッション形式で話し合う。	・ノート、確認テスト ・確認テスト ・ノート、確認テスト ・ノート、確認テスト ・ノート、発表、相互評価 ・ノート、確認テスト ・暗唱、ノート ・音読、発表、相互評価 ・観察、学習記録表、相互評価	・修辞技巧を初出の和歌から見つけられるか。 ・「百人一首」中の類出文法事項が定着したか。 ・語点に従って、正しく読めたか。 ・音韻に関する基礎事項が定着しているか。 ・自分の意見を述べて語りと発見できるか。 ・和歌に関する基礎事項が定着しているか。 ・白文だけを見てその詩を暗誦できるか。 ・話し合いの中で、詩人があんなに好きか。 ・暗唱的発表、発表態度に参加しているか。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
10月	現代語運用能力養成・演習(3)「理解と表現のための基礎能力」①	・現代語の運用能力、現実場面での使用について「日本語能力検定(3月)」(学習5級)を目標に後期は字んてい(ことば)を指導する。 ・「文字と表記」「語彙と慣用表現」「文法と文の構成」「論理・論旨の理解」を中心に	・ノート、文題問題演習、確認テスト	・半年での「検定」試験の内容を把握したか。 ・実践問題演習を通じ、日本語運用能力の基礎を段階的に身につけたか。 ・各学習項目における日本語の構造を理解し、知識を定着させ、運用能力を高められたか。 ・音声言語の正確な聴き取りができたか。 ・話し合いの中で譯の難易度が深まったか。 ・教材の内容を自分で考え読み理解できたか。 ・心算を解き、テーマを把握しているか。
国語	評論 進化と遺伝 小説 資金	・譯人の心情について、クラスで話し合いをする。 ・日常生活での常識を喚起し、発想の転換を要する。 ・小説の登場人物の心情を鑑みとり、テーマを探る。	・観覧、発表、相互評価 ・ノート、ワークシート ・ノート、課題提出	
11月	現代語運用能力演習(3)「理解と表現のための基礎能力」②	・現代語の運用能力、現実場面での使用についての演習を行う。 ・「文字と表記」「語彙と慣用表現」「文法と文の構成」「論理・論旨の理解」	・ノート、文題問題演習、確認テスト	・実践問題演習を通じ、日本語運用能力の基礎を段階的に身につけたか。 ・各学習項目における日本語の構造を理解し、知識を定着させ、運用能力を高められたか。 ・音声言語の正確な聴き取りができたか。 ・「教則」が正しく使えるか。
国語	音韻事項(教師)(1) 前期事項 巻頭 古文 東鑑日記 古文 百人一首	・現代語及び古文での「敬語法」の基本を用例で練習する。(原P.285, 289参照) ・敬語の基礎的事項を、古文の敬語法と併せて理解する。 ・繰り返し音読を行った後、転読、テーマをまとめる。 ・物語を通して、平安時代の時代背景、生き方を知る。 ・多くの歳に慣れ、暗誦し、校内百人一首大会に備える。	・ノート、確認テスト ・ノート、課題提出 ・ノート、原書提出 ・暗誦、観覧、相互評価	・敬語を解し、自然に活用でき使えるか。 ・新訳言葉内で敬語が正しく使われているか。 ・平安時代の時代背景、常識をつかんだか。 ・大会までに、暗誦が定着しているか。
12月	現代語運用能力演習(3)「理解と表現のための実践運用能力」①	・現代語の運用能力、現実場面での使用についての演習を行う。 ・「情報の検索と収集」「目的に応じた理解」「効果的な表現」「音韻情報の選択と整理」「コミュニケーション能力」「敬語の用法」	・ノート、文題問題演習、確認テスト	・実践問題演習を通じ、日本語運用能力の基礎を段階的に身につけたか。(応用) ・各学習項目における日本語の構造を理解し、知識を定着させ、運用能力を高められたか。 ・音声言語の正確な聴き取りができたか。 ・「教則」が正しく使えるか。 ・敬語を解し、自然に活用でき使えるか。 ・授業中に必要な知識を整理できたか。 ・総論を理解し、全論に情報を加えているか。
国語	評論 森林の技 聞き書き 熊手村	・意識と両面に興味を持ち、巻の風力や読み方を探める。 ・グループテーマで話し合い、聞き書き計画を立てる。	・ノート、課題提出 ・観覧、学習記録表	
1月	現代語運用能力演習(3)「理解と表現のための実践運用能力」②	・現代語の運用能力、現実場面での使用についての演習を行う。 ・「情報の検索と収集」「目的に応じた理解」「効果的な表現」「音韻情報の選択と整理」「コミュニケーション能力」「敬語の用法」	・ノート、文題問題演習、確認テスト	・実践問題演習を通じ、日本語運用能力の基礎を段階的に身につけたか。(応用) ・各学習項目における日本語の構造を理解し、知識を定着させ、運用能力を高められたか。 ・音声言語の正確な聴き取りができたか。 ・「教則」が正しく使えるか。 ・内容、発想の中に生かした点があったか。 ・授業を通して社会文化への理解が深まったか。 ・筆者の主張を正確に読み取ったか。
国語	聞き書き 巻表 評論 巻頭 古文 後撰草	・本冊中に登場した聞き書きの内容をまとめ発表する。 ・観音と菩薩を切り分け、社会文化について考える。 ・巻が何を書きようとしたかを考察させる。	・観覧、発表、相互評価 ・ノート、課題提出 ・暗誦、ノート、課題提出 ・ノート、原書提出	
2月	現代語運用能力演習「まとめ」①(3)	・現代語の運用能力、現実場面での使用についてのまとめを行う。 ・「文字と表記」「語彙と慣用表現」「文法と文の構成」「論理・論旨の理解」「情報の検索と収集」「目的に応じた理解」「効果的な表現」「音韻情報の選択と整理」「コミュニケーション能力」「敬語の用法」	・ノート、実践問題演習、確認テスト	・実践問題演習を通じ、日本語運用能力の基礎を段階的に身につけたか。(運用能力の応用、まとめ) ・各学習項目における日本語の構造を理解し、知識を定着させ、運用能力を高められたか。 ・音声言語の正確な聴き取りができたか。 ・「教則」が正しく使えるか。 ・最終的に漢字学習に取り組み始めたか。 ・漢字を整理し、再度文字が読めるか。 ・漢字をつまみ、質問などを進めたか。 ・文章を日常会話に引きこんで理解しているか。
国語	「国字検定試験」 音韻事項 総評・総評 漢文 文法 18史略 評論 杉ノ口の知識	・漢字検定試験を受験し、日本語の語彙力の基礎の確認を行う。 ・漢文試験独特の決まりを整理し、読みを生かす。 ・観音と菩薩を整理し、展開に対して内容を理解する。 ・筆者の主張を日常生活の中での理解する。	・漢字検定試験 ・ノート、確認テスト ・暗誦、ノート、課題提出 ・ノート、課題提出	
3月	現代語運用能力演習「まとめ」②(3)	・1年間の学習のまとめを行う。 ・現代語の運用能力、現実場面での使用についてのまとめを行う。 ・「文字と表記」「語彙と慣用表現」「文法と文の構成」「論理・論旨の理解」「情報の検索と収集」「目的に応じた理解」「効果的な表現」「音韻情報の選択と整理」「コミュニケーション能力」「敬語の用法」	・ノート、実践問題演習、確認テスト	・実践問題演習を通じ、日本語運用能力の基礎を段階的に身につけたか。(運用能力の応用、まとめ) ・各学習項目における日本語の構造を理解し、知識を定着させ、運用能力を高められたか。 ・音声言語の正確な聴き取りができたか。 ・「教則」が正しく使えるか。 ・最終的に日本語能力の確立に取り組めたか。 ・日本語能力検定試験に合格したか。 ・言葉の生き方、音韻の意味を理解できたか。 ・俳句の規則を知り、効果的表現ができたか。
国語	「日本語能力検定試験」 古文 白牡丹 俳句 白牡丹	・日本語能力検定試験を受験し、日本語の語彙力の基礎の確認を行う。 ・記行文を通して、芭蕉の生き方、芸術の趣味を考える。 ・俳句を読み味わい、感想をプレゼンテーションする。	・日本語能力検定試験 ・ノート、課題提出 ・ノート、観覧、作品提出	
備考		本校は生徒の芸術能力の養成を指導科目の資格に据え、国語科の学校設定科目「書語」(1単位)を開講する。第1学年においては古典(古文・漢文)を履修するための習得を目標とともに、社会生活において必要な国語感覚を身につけるための国語表現の基礎を「国語表現」を資格に据えて指導する。また、併設中学校の関連科目(ル・タイル1)との接続を考慮し、設置に際しても、その目的の中学校3年間の体系的指導を計画している。「国語総合」の時間においては年間を通して、音韻事項の基礎・基本を継続的な確認テストを通して覚悟させる。		

☆「国語総合」との関連指導内容

毎月2時間	「書くこと」の領域展開 ・書いて伝える 手紙・記録・報告を書く、口頭で報告をする ・意見文を書く ・「未学習予想」作成の基礎	・必要に応じた通知文や手紙を一般的書式に従って書く。 ・多様なメディアから材料を集め、効果的に発表する。 ・必要な資料を集め、論理的に構成し、文章化する。 ・総合的な学習の時間「未学習予想(国語・読書)」の文章構成、記述に、科目で習得したことを活用する。	・ワークシート、課題提出 ・学習記録表、観覧、相互評価 ・学習記録表、観覧、相互評価 ・未学習予想提出、A・B・C制作画	・社会で必要な手紙等の書式を理解したか。 ・資料収集が適切で、効果的に使えているか。 ・資料が適切で、文構成に工夫があるか。 ・自分で習得したことが「未学習予想」の文章に生かしているか。
-------	---	--	---	--

学校設定科目「L-TIME」全体計画

滋賀県立水口東中学校

「L-TIME」の目標

真の学力の基礎であり、自ら学び考える力、生きる力の源泉でもある「言語」能力を育成するため、中学校段階からの徹底した読書指導を重視する。そこでは、従来の文字情報に加えて、新しい形態の情報活用方法をも身に付けさせることにより、「読む・書く・聞く・話す・伝える・伝え合う」力を習得し、中学校生活や学習に役立てるとともに人間形成に生かし、自分のものの方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に表現する能力を身につける。

言語理解を通して日本文化に対する理解を深め、日本人としての自覚を高めるとともに、異文化に対する理解と尊重の態度を育て、国際化・情報化の現代的課題へ対応する能力をも育成する。

「L-TIME」の概要は以下の二つの学習内容を柱とする。

一つは、読書指導を中心とする「言語表現」であり、学校図書館機能を拡充し、図書館司書・「L-TIME委員会」・国語科のもとに学習内容を企画・立案する。年間読書計画の作成、図書館の利用方法、ブックトーク（同学年生徒・上級生・教員・校外の人材等々からの読書意欲を結びつく様々な刺激）、分野別推薦図書および自由選択図書の熟読、読書記録の作成。あらずじや感想文の作成および発表、俳句・短歌・探歌・保護者への手紙等の作成、個人・学級文庫の作成等を内容とする。また、週末の有意義な過ごし方にもつなげる指導を行う。

他方は、「総合的な英語力」の育成である。英語圏の国々やその文化等を学ぶことにより、日本についての理解を深めるとともに、地球市民としての自覚を育む。目・耳・口・手など体の働きをおして多様な英語に触れることにより、豊かな表現力の基礎を養う。現在の生活や興味・関心と結びつけることにより、「英語」を一層親しみやすいものにし、継続して学習しようとする意欲を高める。英語圏の国々やその文化等を学ぶことにより、日本についての理解を深めるとともに、地球市民としての自覚を育む。

「言語表現」各学年の指導の重点目標

第1学年	第2学年	第3学年
<ul style="list-style-type: none"> 読書の楽しみを知り、生活や学習に生かす。 ことばの働きや役割を理解し、人間がことばを持つことの意味についての認識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の幅を広げ、読書を人間形成に生かす。 ことばが文化や思考様式と深い関係を持つことを理解し、言語や日本語に対する関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の質を高め、生涯にわたる読書生活の基礎を培う。 必要な情報を収集し、それを分類、分析整理する学習を通して学ぶ喜びを知り、学ぶ方法を身につけると共に生涯にわたって学び続ける態度を養う。

各教科	育てたい技能	特別活動		
		学級活動	生徒会活動	学校行事
<ul style="list-style-type: none"> ことばについての関心を持たせる 日本語に関する認識を深めさせる 正しい発音・発声で話す 伝え合う力を養う 情報を収集・分類・整理するとともに情報処理能力を養う（図書館との連携） 	<ul style="list-style-type: none"> 聞くこと・話すこと（話し合い、情報交換、討議など） 書くこと（記録、メモ、ノート、作文など） 読むこと（要約、要点、主題、要旨、構成、感想など） 音読・朗読 言語事項（発音、発声、語彙、文法など） 情報処理（情報収集、分類、分析、整理など） 	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介 スピーチ 話し合い 読書会 図書館利用についての基礎的知識 進路選択 	<ul style="list-style-type: none"> 新入生歓迎会 クラブ紹介 文化祭、体育祭などの話し合い 修学旅行についての話し合い 学校図書館の運営に参加させる 	<ul style="list-style-type: none"> 弁論大会 演劇、朗読 文化祭や校外学習の事前学習

「英語総合」（仮称）の全体計画

学年別目標

1年	2年	3年
<ol style="list-style-type: none"> 英語を好きになる。 身のまわりの英語表現に親しむ。 英語の音声に親しむ。 自分の使う英語が相手に伝わる喜びを体験する。 	<ol style="list-style-type: none"> 自分のことについて、英語で伝えようとする積極性を養う。 音声によるコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を養う。 英語圏の文化に目を向けるとともに日本の文化を再認識する態度を養う。 	<ol style="list-style-type: none"> 生活に結びついた英語を幅広く身につけようとする積極性を養う。 文字によるコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を養う。 英語圏の文化とともに日本の文化についても理解を深める。 英語による読書をおして達成感を味わう。

学年別学習内容

1年	2年	3年
<ol style="list-style-type: none"> 日常生活の中に入り込んでいる英語を探し出し、標準的な発音や意味などを確認する。 日常的なあいさつなどが自然にできるようにする。 自分や家族・地域などについて、簡単な説明ができるようする。 簡単な英語の歌を歌えるようにする。 短い簡単な文章の暗唱発表を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 天候・健康・食事などにかかる基本的な表現を身につける。 自分の学校生活や家庭生活について、簡単な説明ができるようにする。 ジュースチャーターなど身近な例をおして英語圏との文化の違いに目を向ける。 短い文章や絵の内容について、簡単な応答ができるようにする。 まとまりのある文章の暗唱発表を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 旅行・買い物・日本紹介などにかかる基本的な表現を身につける。 カードや簡単な手紙の書き方、電話のかけ方にかかる基本的な表現を身につける。 関心のある分野の調べ学習をおして英語圏の国々について理解を深める。 平易な文章で書かれた比較的長い物語などを読む。 簡単なスピーチを発表する。

資料7

平成15年度

平成15年度 「国語総合」「言語」（第1学年） 評価方法（案）

【理念】

評価の観点（4つ）

「関心・意欲・態度」
「思考・判断」
「技能・表現」
「知識・理解」

評価の観点（国語科のみ5つ）

「国語への関心・意欲・態度」
「話す・聞く能力」
「書く能力」
「読む能力」
「言語についての知識・理解・技能」

☆評価方法の改善について

- ①評価を、学習や指導の改善に役立たせる観点から、総合的な評価のみではなく、分析的な評価、記述的な評価を工夫すること。
- ②評価を行う場面としては、学習後のみならず、学習の前や学習の過程における評価を工夫すること。
- ③評価の時期としては、学期末や学年末だけでなく、目的に応じ、単元ごと、時間ごとなどにおける評価を工夫すること。
- ④具体的な評価方法としては、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポートなどを用い、その選択・組み合わせを工夫する。

また、児童生徒による自己評価や児童生徒同士の相互評価などを生かすことや、保護者による評価、教育活動に協力した地域の人々などによる評価を参考にすることなども有効である。

とりわけ、自己評価については、自ら学ぶ意欲などを見る上で有効であるばかりでなく、児童生徒が自分自身を評価する力や他人からの評価を受け止める力を身に付け、自己の能力や適性などを自分で確認し、将来を探求できるようにするためにも大切である。

さらに、学習活動の特質に応じ、学習の過程における児童生徒のレポートや作品など具体的な事例を保存し、学習の進め方などの指導に役立てる評価も有効であると考えられ、各学校や関係機関などにおいて評価方法についての研究が進められることが期待される。

☆次の3点に関し、それぞれ「教師による評価」「自己評価」「相互評価」を考えてみる。

- ①授業等の活動における評価
- ②考查による評価
- ③作品、レポート等による評価

「国語総合」

国語への意欲・関心 ・態度の観点 (1.0%)	評面内容 ①提出物(作品、レポート、課題 / 以下提出) ②家庭における主体的な学習習慣(学習態度)の形成 ③授業における意欲・姿勢 ④言葉そのものへの関心 ・日常の言葉遣いなどの改善	評面の観点及び基準 (A、B、C評面) ・与えられた課題を善美にこなし、また、積極的に自ら進んで発展した内容に仕上げることができた。 ・週末課題において、与えられた課題をこなすことから始まり、次第に自学自習の習慣が養われてきた。 ・授業中の疑問への考察の姿勢や疑問点への好奇心が積極的な質問や返答の中に感じられた。 ・授業中や日常の言葉遣いなど言語生活に関心をもち、伝え合う力を高める姿勢が見られた。
読むこと (C領域) の観点 (4.0%)	①定期考査における「C領域」の考査問題への解答 ・近代以降の文章の場合 ・古典の文章の場合 ②音読、朗読における内容理解の把握	近代以降の文章、古典の文章それぞれにおいて ・考査の設問や問題の内容を正確に理解し、必要な情報を読み取ることができた ・文章に表れたものの見方や考え方などを客観的に読み取り、内容を正確に理解することができた(文学的文章、歴史的文章、説文) 古典の文章に興味を持ち、作品の内容を正確に読み取り、表現の細部や深部のおもしろさを感じられた。 ・文章を読み深めるための音読や朗読において、内容が正確に理解できていることの方が分かる読み方ができた。
書くこと (B領域) の観点 (2.0%)	①定期考査における「B領域」の考査問題への解答 ・近代以降の文章の場合 ・古典の文章の場合 ②感想文・課題文における表現の工夫や整かさ	近代以降の文章、古典の文章それぞれにおいて ・考査の設問や問題の内容を正確に理解し、課題(記述設問)に応じた的確な表現ができた。 ・本を読み、内容を理解し、考えをまとめ、自分の抱いた思いや感想を書き順序を工夫して書くことができた。 ・本を読み、紹介を書いたり、課題について収集した情報を整理して記録や報告を書くことができた。
言語についての知識 ・理解・技能(言語事項) の観点 (3.0%)	①定期考査における「言語事項」の考査問題への解答 ・近代以降の文章の場合 ・古典の文章の場合 ②小テストの累積(漢字力)及び表記の際のルールの習得	近代以降の文章、古典の文章それぞれにおいて ・考査の設問の内容を正確に理解し学力が身についた。 ・漢字小テストの累積点数数化 ・読解力小テストの累積点数数化 ・原簿用紙の使い方を習得することができた。

「言語」

	評価内容	評価の観点及び基準 (A、B、C評価)
<p>国語への興味・関心 ・態度の観点 (1.0%)</p>	<p>①提出物(スピーチ原稿、作品、レポート、課題、ノート提出) ②家庭における主体的な学習習慣(学習態度)の形成 ③授業における意欲・姿勢</p> <p>④言葉そのものへの関心 ・日本語運用能力の改善 ・日本語運用能力の育成</p>	<p>・与えられた課題を着実にこなし、また、積極的に自ら進んで発展した内容に仕上げる事ができた。 ・運未課題において、スピーチや発表の話題を探すと与えられた課題をこなすことから始まり、次第に身近な物事への好奇心を広げ、言語化への意欲が見られた。 ・授業中の疑問への考察の姿勢や疑問点への好奇心が積極的な質問や返答の中に感じられた。 ・授業中や日常の言葉遣いなど言語生活に関心をもち、伝え合う力を高める姿勢が見られた。 ・日本語運用への興味を持ち、その能力を高めることへの強い意欲が感じられた。</p>
<p>聞く・話すこと (A領域) (4.0%)</p>	<p>①話題を選んだスピーチや発表 ②他者の発表に対するメモカ・コメントカ、相互評価カ ③音読、朗読による身体を通した伝え合うカ</p>	<p>・適切な話題を選んで、自分の考えをまとめ、スピーチや説明などを行うことができた。 ・課題について調べたり考えたりしたことを基にして、集団で話し合いや討論などを行うことができ、自分の意見を正確に堂々とした態度で発表できた。 ・他者の話をよく聞き取る能力や態度を身につけ、お互いに客観的な相互評価をすることができた。 ・正確な日本語を使って、大きな声で音読や朗読ができた。そのことから、音読言語の豊かさや魅力を身体を通して実感することができた。</p>
<p>国語についての知識 ・理解・技能(言語事項)の観点 (5.0%)</p>	<p>①定期考査における「言語事項」の考査問題への解答 ②小テストの累積(古典文法・基本的な語彙カ) ③日本語運用能力検定受験準備</p>	<p>・考査の疑問内容を正確に理解し、課題(漢字・語彙カ・古典文法・その他言語事項)に応じた基礎・基本の学力が身についた。 ・古典文法小テストの累積点数化 ・語彙カ小テストの累積点数化 ・正確な日本語の運用能力が、「日本語能力検定」受験準備のための実践的な演習を通して身につけてきた。</p>